

〔八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策〕

## ルスカスの夏季管理技術の確立

### ～ルスカスこうじかび病への近紫外線除去フィルムの効果～

鈴木克彰・坂本 彩\*・菊池知古

(島しょセ八丈) 現\*生産環境科

---

【要 約】ルスカスのハウス栽培における近紫外線除去フィルムの効果を確認した。近紫外線除去フィルムは除去機能の無いフィルムと比べて、こうじかび病と葉枯れ症状の発生を抑制した。ハウス内温度と新茎発生数に大きな差は無かった。

---

#### 【目 的】

八丈町におけるルスカスの生産が拡大している中、夏季の出荷の伸び悩みが問題となっている。その原因として、こうじかび病の発生が大きいとされている。平成 17 年の研究で、ハウス被覆資材としての近紫外線除去フィルムの利用がこうじかび病の発生を抑えることが示唆されたため、近紫外線除去フィルムの効果を明らかにするため、更なる調査を行う。

#### 【方 法】

ルスカス生産者圃場のハウス被覆資材を目視で調査した。

効果判定試験として、八丈事業所内の 4 年生ルスカス栽培中のハウス 2 棟を 2023 年 6 月にそれぞれ近紫外線除去機能のあるダイヤスターUV カット（以下、UV カット区）と除去機能の無いダイヤスター（以下、ダイヤスター区）で被覆した。ハウス外には青ネット（目合い 2mm）を、ハウス内には遮光ネット（遮光率 50%）を展張した。ハウス内に 1.2m×4.5m (5.4 m<sup>2</sup>) の試験区を 3 連制で設定し、200 本/m<sup>2</sup>程度に整枝した。200 葉/区についてこうじかび病および葉枯れ症状の調査を 8 月 3 日から 7 日ごとに行った。8 月上旬と 9 月下旬に新茎発生数を調査した。

#### 【成果の概要】

1. 部会委員 23 名のハウス計 36 棟を調査したところ、被覆資材としてダイヤスターとクリンテートの使用が多く、近紫外線除去機能のある資材の使用は無かった（表 1）。
2. UV カット区とダイヤスター区のハウス内の温湿度の推移はほぼ同調した（図 1）。
3. こうじかび病については、8 月 3 日には両区共にすでに発生していたが、9 月末までのダイヤスター区の発病葉率が 10%前後で推移したのに対し、UV カット区は 5%前後であった（図 2）。10 月に入ってから、両区共に発病葉率が上昇したが、常に UV カット区の方が発病葉率は低かった。葉枯れ症状は、8 月 3 日には両区共にすでに発生していたが、ダイヤスター区の発病葉率が 20%前後で推移したのに対し、UV カット区は 15%前後で、常に UV カット区の方が発病葉率は低かった（図 3）。本症状は葉先枯病あるいは葉枯病によるものと推定される。
4. 新茎発生数は、両区共に 700 本程度となり、大きな差は無かった（図 4）。
5. 近紫外線除去フィルムの価格は除去機能の無いフィルムの約 1.1 倍であった（表 2）。

#### 【残された課題・成果の活用・留意点】

1 年を通じての調査を行っていないため、次年度以降も同様の調査を行い、近紫外線除去フィルムの効果を確認する。

表1 ルスカス生産者のハウスの被覆資材調査

被覆資材	棟数	被覆資材	棟数
ダイヤスター	21	農PO	2
クリンテート	7	みかど長寿	1
ポリカーボネイト波板	5		

八丈島ルスカス共撰共販出荷組合の部会員 36 名中 23 名のハウスを調査 (2023 年 4 月 20 日)

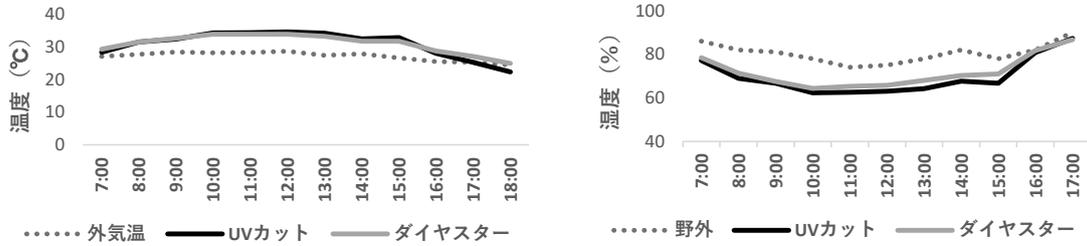


図1 UVカット区とダイヤスター区の温度(左図)と湿度(右図)(7月23日)  
おんどとり(RTR507B) 当日は日照時間12.0時間、降水量0mmであった(八丈島アメダス)

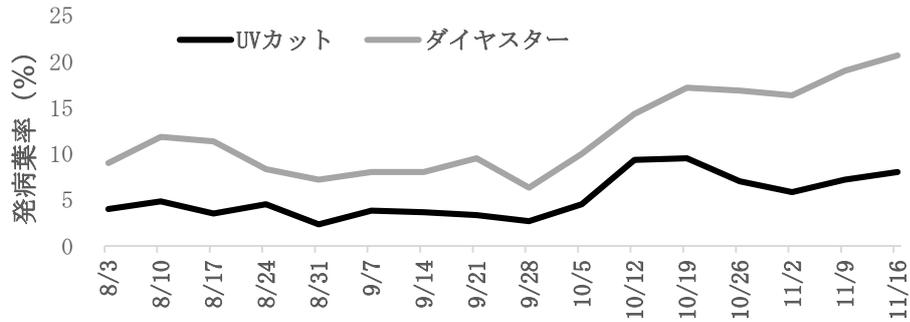


図2 UVカット区とダイヤスター区におけるこうじかび病の発病葉率  
10月19日に株元までこうじかび病が発病している葉の除去を行った

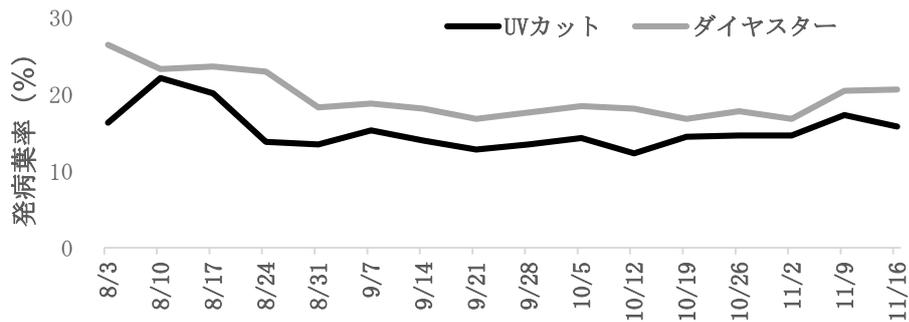


図3 UVカット区とダイヤスター区における葉枯れ症状の発病葉率

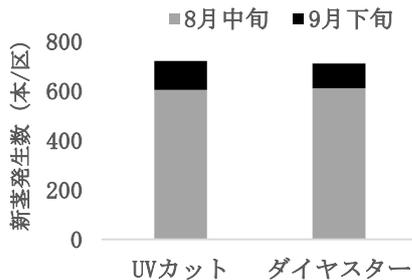


図4 新茎発生数

表2 被覆資材の導入コスト

	規格	価格(円)
ダイヤスター	5.4m×26m	69,390
ダイヤスターUVカット		76,220